

栃木県教育委員会定例会会議録

令和5(2023)年1月5日(木)、栃木県教育委員会定例会を栃木県庁南別館内教育委員会室に招集した。

1 出席者(教育長及び委員)は次のとおりである。

1番(教育長)	阿久澤	真理
2番	金子	達也
3番	陣内	雄次
4番	板橋	信行
5番	鈴木	純美子
6番	工藤	敬子

2 議事に参与した職員は次のとおりである。

教育次長	中谷	一彦
教育次長	中村	千浩
参事(高校再編推進担当)	佐瀬	学
総合教育センター所長	大高	栄男
総務課長	大森	豊
義務教育課長	山岸	一裕
高校教育課長	長	裕之
特別支援教育室長	玉田	敦子
スポーツ振興課長	大牧	稔

3 午前9時30分、教育長及び委員は全員出席しており、委員会は成立したので、教育長は定例会を開催する旨を告げた。

4 教育長は、本日の会議録署名委員に5番鈴木委員を指名した。

5 教育長は、報告を受ける旨を告げた。

6 報告

(1) 公立学校職員の給与に関する教育委員会規則の一部改正について教育長から説明を求められ、総務課長が説明した。
この報告に関して、出席者から質問や意見はなかった。

(2) 令和4(2022)年度中学校等生徒の進路希望調査(第2回)の結果について教育長から説明を求められ、総合教育センター所長が説明した。
この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

[委員]

- ・ ここ数年の状況として、子どもたちの進学先のニーズと受け皿となるべき学校の形に少しずつずれがでてきている。
引き続き、学校の在り方を含めて、子どもたちが学びやすい、選びやすい学校になるように工夫をお願いしたい。

[委員]

- ・ 資料3ページの表について、「中学校等卒業者」は昨年度の卒業者数だが、前年同期の進路希望調査の人数よりも、県立高校全日制は減少し、私立高校全日制が増加しているのは、県立高校に不合格だった生徒が私立高校に入学したということによろしいか。

[事務局]

- ・ お見込みのとおりである。

[委員]

- ・ 了解した。

[委員]

- ・ 4ページの進路希望状況推移をみると、2016年に教育機会確保法が施行されて以来、いろいろな学び方があってよいという理解度が反映されているのだと思う。これをどのように捉えるのかが重要で、県立高校全日制が減り、他の高校が増えているということをポジティブにみるのか、ネガティブにみるのかということだと思う。ポジティブにみると、いろいろな学び方が容認されてきた中で、県立高校全日制だけが選択肢ではなく、積極的に他の学校を選んでいると考えると、いろいろな学び方を教育委員会として保障しなければならないと思う。そのために、栃木県の教育システムをどのように創っていくのかが問われていると思うので、それをベースにして今後検討していただきたい。
- ・ また、宇都宮白楊高校は毎年、全コースとも倍率が高いのはなぜか。

[事務局]

- ・ 宇都宮中心部という立地をはじめ、様々な要因が考えられる。
学科の特色という点では、宇都宮農業高校の時代から複数の学科を増やして、受け皿が広がったという点もあると思う。

[教育長]

- ・ いろいろな要因があると思うが、倍率の高い学校・学科は、すべて宇都宮市の学校ということもあり、地の利が大きいのではないかと思う。

[委員]

- ・ 工業系の学校の施設設備について、地域差があると聞いたことがある。地方の学校にも最新の設備など学校の魅力になるような設備があると、進路を決定する上で参考になると思うが、実際に地域差があるのか、伺いたい。

[事務局]

- ・ 施設設備については、学校によって違いはあるが、各学校で老朽化した施設や設備の更新を年度ごとに計画している。
- ・ 最近では、産業教育の充実ということで国の事業を活用して、DXに対応した実習設備の導入も進んでおり、地域差の無いように努めている。

[事務局]

- ・ 宇都宮工業高校が移転、開校した当初は、最新設備が導入され、他校が借りに行っていた時期もあったが、この数年で地域の工業高校等にも新しい設備が導入されており、地域差はかなり解消されていると思う。

[委員]

- ・ 13ページの宇都宮青葉高等学園の進学希望者数について、希望者数は増加傾向にある。宇都宮青葉高等学園は最新の施設設備ということもあり、実際にはもっと多くの子どもたちが希望していると思う。できるだけ多くの生徒

が入学できるよう、定員 80 名は増員することはできるのか。

〔事務局〕

- ・ 宇都宮青葉高等学園は、今年度 99 名の希望があり、昨年度は 80 名、その前年度は定員を割ってしまったこともあった。これまで、学校説明会を何回にもわたって実施するなど、学校が工夫をしてきたところである。

本校に通えない子どもたちに対しては、宇都宮青葉学園を会場にいろいろな研修も開催しているほか、地域の学校で子どもたちに合った学びの工夫もしており、今後も充実を図っていきたい。

〔教育長〕

- ・ 臨時に増員するなど、定員を増やすことはできないということによいのか。

〔事務局〕

- ・ 80 人が限界となっている。

〔教育長〕

- ・ 特別支援教育の工夫については今後検討していきたい。

- (3) 令和 6 (2024) 年度栃木県公立学校新規採用教員選考の主な変更点について教育長から説明を求められ、義務教育課長が説明した。
この報告に関して、出席者から次のような質問があった。

〔委員〕

- ・ 採用試験の質は落とさずに、負担を軽減することで教員になるためのハードルを下げるといふ配慮も必要だが、根本的に栃木県で教員になった後に、残業が少ない、男性も育休を取得できるなどのインセンティブが大切だと思う。受験しやすい環境を模索する以上に、栃木県で教員になることが喜びにつながるように予算をつけて、しっかりとしたサステイナブルな取組をお願いしたい。

〔教育長〕

- ・ さまざまな角度から教員の魅力についてアピールしていきたい。

- (4) 令和 6 (2024) 年度栃木県立中学校入学者選考関係諸日程について教育長から説明を求められ、高校教育課長が説明した。
この報告に関して、出席者から質問や意見はなかった。

- (5) 令和 6 (2024) 年度栃木県立高等学校入学者選抜関係諸日程について教育長から説明を求められ、高校教育課長が説明した。
この報告に関して、出席者から質問や意見はなかった。

- (6) 令和 6 (2024) 年度栃木県立特別支援学校入学者選抜関係諸日程について教育長から説明を求められ、特別支援教育室長が説明した。
この報告に関して、出席者から質問や意見はなかった。

- (7) 「令和 4 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」及び「令和 4 (2022) 年度栃木県児童生徒の体力・運動能力調査」の結果について教育長から説明を求められ、スポーツ振興課長が説明した。
この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

[委員]

- ・ 部活動の地域移行がうまく進んでいかないと、学校で部活動はあまりやらない、受け皿もないとなった時に、体を動かす機会がなくなっていくと思う。本県の部活動の地域移行はどのような状況か。

[事務局]

- ・ 本県の女子の成績が全国平均を上回っており、この背景には、クラブ・部活動に加入する割合が高いということがあり、運動機会の確保は重要であると考えている。
部活動の地域移行については、国が少しスピードを緩めたところであるが、県としては、市町に向けて引き続き推進していただくように説明をしており、来年度の国の事業なども活用して、地域移行が少しずつでも進むように取り組んでいる。

[委員]

- ・ これは体力だけの問題ではなく、コミュニケーション力であったり、子どものうちから疲れやすい、だるいなど、体を動かす機会がないことでメンタル不調にもつながっていたり、知育・体育・食育と人間の基礎となる部分だと思う。県教育委員会として、これまでも取り組まれていると思うが、学力と同等にしっかりと取り組んでいく必要があると思う。

[教育長]

- ・ 国体のレガシーということで、国体で高まったスポーツへの機運をどのようにその後の活動につなげていくのか、一過性で終わらせないためには、施設の活用などのスポーツコミッションももちろん重要だが、子どもたちの体力の向上、運動能力の向上という地道なところにしっかりと取り組んでいくことが大切だと思う。
本県は、種目によって若干差があるようだが、そういうところもよく分析しながら、体力向上はすべての活動に影響してくるベースになる部分なので、しっかりと取り組んでいきたい。

- 7 教育長は、審議に移る旨を告げた。
- 8 第1号議案 令和5(2023)年度栃木県立高等学校の生徒並びに特別支援学校の高等部の生徒及び幼稚部の幼児の募集定員について
第1号議案は、審議の結果、原案どおり可決された。
この議案に関して、出席者から意見等はなかった。
- 9 教育長は、以上で本日の会議を終了することを告げ、午前10時18分、閉会した。